

はじめに

私たちの身体の中では、いろいろな液体が作られています。代表的なものは血液で、その大切さは誰もが知っています。また、涙は美しいものの代名詞としても使われています。それでは、唾液はどうでしょうか。血液を原料とし、涙を作る涙腺と似た構造をもつ唾液腺で作られているにもかかわらず、これまで「汚い」、「くさい」、「気持ち悪い」など、邪魔者のようなイメージをもたれてきました。

しかし、いま、唾液は大きな脚光を浴びています。

毎日の生活で“食べる喜び”、“会話する楽しみ”を感じ、健康で、心豊かな生活を送るために、唾液はなくてはならないものであることを、多くの人が理解するようになってきました。唾液の重要性を知っている歯科医療者にとってはうれしいことですが、唾液は大切なものであることが広く認識されるようになった大きな理由が、ストレスに晒される生活、人口の高齢化や有病者の増加に伴い、唾液が少なくなることによって生じる症状に悩む人が増加しているという喜ばない状況の結果でもあります。

高齢者の死亡の大きな原因となっている誤嚥性肺炎では、肺の中に口腔内細菌が高率に検

出されることから、口腔内細菌の増加がリスクファクターのひとつとして挙げられています。口腔の環境をよい状態に保つことがその予防に繋がり、唾液も口腔環境の維持に重要な役割を果たしていることは、医師や看護師の常識となっています。

また、唾液は、口腔の疾患であるう蝕や歯周病の状態とリスクを、客観的に評価する検査の材料としても利用されています。さらに、唾液は血液と比べて採取が容易であることから、血液の代わりに体質や口腔以外の病変のリスク判定、診断に利用する試みも進められています。

日常の歯科臨床では、唾液は身近な存在です。本書では、唾液と唾液腺のことを正しく理解して知識を整理し、それをもとに唾液を用いる検査、唾液の減少によるドライマウス（口腔乾燥症）への対処が適切に行えるよう、また、唾液腺の病変についてもQ&A形式で解説しています。

本書が、みなさんの日常の口腔ケアや口腔衛生指導、そして患者さんに唾液の大切さを伝えるお役に立てば幸いです。

2017年3月

小川郁子